

# 日本脳炎ワクチンを接種される方へ ※予防接種の前に必ずお読みください。

日本脳炎ワクチン予診票にご記入のうえ、医師の診察を受けてください。もし、お子様にふだんと変わった様子があった場合には、必ず医師にご相談ください。

## 1 病気の説明（日本脳炎） ※札幌市がお配りしている「予防接種のしおり」もあわせてご覧ください。

ブタなどの体内で増えた日本脳炎ウイルスが蚊によって媒介されることにより感染します。人から人には感染することはありません。

症状が出る場合は、6～16日間の潜伏期間の後に、数日間の高熱、頭痛、嘔吐などの症状があらわれ、急激に、光への過敏症、意識障害等の中枢神経系障がい（脳の障がい）を生じます。

感染しても、大多数の方が無症状に終わりますが、脳炎を発症した場合20～40%が死亡に至るといわれています。

患者の発生数は、近年では、毎年10人以下が西日本を中心に発生するに留まっており、北海道における患者の発生はありません。

日本脳炎ワクチンは、3回の接種で日本脳炎の発症を予防することが可能なレベルの免疫を獲得し、その後概ね5年から10年毎に1回接種することで、免疫を維持することが期待されています。

## 2 接種について

**第1期** ○接種対象年齢：生後6か月から90か月に至るまで

○ワクチン：不活化ワクチン

○接種回数と接種間隔

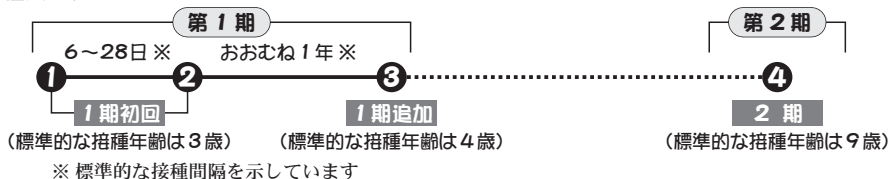
**1期初回** 6日以上の間隔をあけて2回接種（標準的な接種間隔：6～28日）  
※標準的な接種年齢は3歳

**1期追加** 初回接種終了後、6か月以上の間隔をあけて1回接種  
（標準的な接種間隔：おおむね1年）※標準的な接種年齢は4歳

**第2期** ○接種対象年齢：9歳～13歳未満

1回接種 ※標準的な接種年齢は9歳

### （接種スケジュール）



### ●特例接種について

■以下の対象の方については、特例的に無料で接種できます【最大4回の接種が可能】

日本脳炎ワクチンは、平成17年度から平成21年度にかけて実施された積極的な勧奨の差し控えにより接種を受ける機会を逃した方のために、特例措置が設けられており、札幌市で定期接種を行う際にも適用されます。なお、具体的な接種間隔等は、医療機関にご相談ください。

①平成8年4月2日～平成19年4月1日までの間に生まれた20歳未満の方

②平成19年4月2日～平成21年10月1日までの間に生まれた生後90か月未満又は9歳～13歳未満の方

※ 特例接種に該当する生年月日の方であっても、対象年齢（下線部分）に該当しない場合は、定期予防接種になりませんので、ご注意ください。

### 3 予防接種後に起こる可能性のある症状（副反応）について

◇発熱やせき、鼻水、発疹、接種部位の赤み、腫れなどがみられます。

◇まれですが、アナフィラキシー様症状<sup>1)</sup>、急性散在性脳脊髄炎（ADEM）<sup>2)</sup>、脳症、けいれん、血小板減少性紫斑病<sup>3)</sup>などの重い副反応も報告されています。

1) アナフィラキシー：呼吸困難、じんましんなどを症状とする重いアレルギー

2) 急性散在性脳脊髄炎（ADEM）：頭痛、嘔吐、意識の低下などを症状とする脳などの病気

3) 血小板減少性紫斑病：血小板の減少により、出血しやすくなる病気。皮膚の下で出血して青あざができることがある。

※ 予防接種後、副反応と思われる症状等で心配なことがありましたら、接種した医師にご相談ください。

### 4 予防接種を受けることができない人

- ① 明らかに発熱している方（通常は37.5℃を超える場合）
- ② 重い急性疾患にかかっている方
- ③ このワクチンの成分によってアナフィラキシー（通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性じんましんなどを伴う重いアレルギー反応のこと）を起こしたことがある方
- ④ その他、医師に予防接種を受けないほうがよいといわれた方

### 5 予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなくてはならない人

- ① 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障がいなどの基礎疾患のある方
- ② 過去に予防接種で接種後2日以内に発熱、全身性発疹などのアレルギーを疑う症状のみられた方
- ③ 過去にけいれん（ひきつけ）を起こしたことがある方
- ④ 過去に免疫状態の異常を指摘されたことのある方もしくは近親者に先天性免疫不全の人がいる方
- ⑤ このワクチンの成分に対してアレルギーを起こすおそれのある方

### 6 接種後の注意

- ① 接種後30分間は、ショックやアナフィラキシーが起こることがありますので、医師とすぐに連絡が取れるようにしておきましょう。
- ② 接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ③ 接種後1週間は体調に注意しましょう。また、接種後、腫れが目立つときや体調が悪くなったときなどは医師にご相談ください。
- ④ このワクチンの接種後、違う種類のワクチンを接種する場合には、6日間以上の間隔をあげる必要があります。他のワクチンとの同時接種については、医師にご相談ください。
- ⑤ 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は問題ありませんが、接種部位をこすことはやめましょう。
- ⑥ 接種当日は激しい運動はさけてください。その他はいつも通りの生活で結構です。

### 7 健康被害が発生した場合

ワクチンの接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障がいを残すなどの健康被害が生じた場合には、申請することにより補償を受けられる場合があります。詳しくは接種した医療機関にお問い合わせください。